

- 1 単元名 俳句をつくろう
- 2 単元設定の背景

教材観

俳句・短歌は決められた音数の中で、自分の中に秘めた心情や景色を表現するものである。俳句を創作することは、短歌、俳句のリズムや技巧についての理解を深め、作品へ込められた思いや情景がより伝わるよう、表現の工夫とその効果などについて考える学習に適している。また、お互いに作品を批評することで、クラスメイトの作品から考えたことを自分の作品に活かすことができ、共感的人間関係を基盤とした「学び合い」が生まれると考える。そして、班員の助言を踏まえ、自分の作品のよい点や改善点を見だし、自分の考えを広げようとする態度を育てることが期待できる。

生徒観

中学校1年生では、谷川 俊太郎「朝のリレー」、彬 みき子「それだけでいい」、2年生では新川 和江「名づけられた葉」の詩を学習し、言葉の違いによる印象や表現技法による効果などについて学習をしている。また、2年生では「短歌の世界」、「短歌十首」をとおして、日本人が長年培ってきた言葉に対する思いの深さにふれ、表現の工夫やその効果を学んできた。しかし、表現技法や表現の工夫について自分で見つけることが難しく、定着できていない生徒がいることが課題である。また、短歌という31字の短い詩に親しむことで、自由に読み、自由に想像力を働かせる楽しみを体験しているが、短歌、俳句に日頃から接する機会が少ない、またはないため、距離を感じている生徒が一部いることも課題である。

集団観

お互いに作品を批評することで、短歌、俳句のリズムや技巧についての理解を深め、共感的に活動ができる集団をめざす。そのために、受容と共感の姿勢を大切にさせたい。話し手は根拠を示した上で意見を述べる。それに対して、聞き手はクラス、グループの意見を一度受容し、そのうえで、自分の作品の改善点を見だし、改善することを意識させることで、表現技法や表現の工夫についての理解が深まるようにする。

指導観

本単元では、短歌、俳句のリズムや技巧についての理解を深め、作品へ込められた思いや情景が伝わるよう、表現の工夫とその効果などについて考える力を育成する。そのために、俳句を創作する中で、習得した表現技法を活用するなど、自分なりに根拠を持った表現の工夫ができるようにする。

まずは、全国俳句大会の入選作品を鑑賞させ、俳句における季語の使い方や表現の工夫について学習させる。また、グループにおいて、言葉一つひとつに注目をさせ、創作した作品を推敲する。これにより、読み手の意見を取り入れた俳句に改良することが期待できる。さらに、読み手は、なぜその言葉を選んだのか、根拠をもって自分の考えを述べることで、論理的思考力を育成していきたい。他方、受け手は、意見を一度受容し、そのうえで自分の作品の改善点を見だし、改善することで自分の考えを広げようとする態度を育成する。

3 単元の目標及び計画 (全9時間)

■単元の目標

短歌、俳句のリズムや技巧についての理解を深め、作品へ込められた思いや情景が伝わるよう、表現の工夫とその効果などについて考え、粘り強く効果的な語句や表現を選んでよりよい作品を創ろうとする力を育成できるようにする。

■単元の計画

- 第1次 短歌の世界・・・・・・・・・・3時間
- 第2次 短歌十首・・・・・・3時間
- 第3次 俳句をつくる・・・・・・・・・・3時間(本時2/3)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語	表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	粘り強く表現の効果を考えて、より効果的な語句や表現を選んで描写しようとしている。

句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。	
---	--	--

## 5 本時の学習

■目標 班員の意見を参考に、自分の作品をより心情、情景が伝わるように工夫する。

### ■「受容と共感を促す手立て」

グループ学習において、意見を伝えやすくするために、作品の創作者はグループの意見を一度受容したうえで、作品の改善に向けて検討や吟味することを伝えたり、創作することの価値に注目させたりするようにする。

■学習過程 ※(全)(小)(個):学習形態(全:全体の場合 小:小集団 個:個人)㊟:留意点 ㊠:評価の観点(方法)

学習事項	生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 前時の振り返り(俳句のポイントを振り返る) { 1 リズムが良い。 2 情景や心情について、読み手が想像を広げやすい表現になっている。(映像が浮かんでくる) 3 オリジナルの表現がある。	(1) 前時の内容にふれることで、本時のグループ学習でも、3つのポイントに着眼することを意識させる。 ・板書をし、子どもが視覚的に理解できるようにする。 ・自分の作品が3つのポイントに当てはまるか、確認をさせる。	(全) 説明や板書を通して、共通理解できるようにする。 (個) 自分の作品を振り返らせる。
2. 学習課題の確認	(2) 学習課題を確認する。 友達の意見から、よりよい俳句にしよう。	(2) グループの意見を一度受容したうえで検討することを伝えることで、よりよい俳句に近づけようとする意識を高める。ただし、変更しないことも可能とする。	(全) 説明や板書を通して、共通理解できるようにする。
3. 学習課題の追求(意見の収集)	(3) 班ごとに、一人の作品について、5分間アドバイスをする。 5分 × 4人 ・順番を入れ替えた方がいい。 ・直接的な表現になっている。	(3) 着眼点を意識させることで3つのポイントに焦点を絞った班活動につながるようにする。 ・考えたアドバイスについて、根拠を基に伝えさせる。 ・班員が意見を伝えやすくするために相手の意見を一度受容させる。	(小) → (全) グループで考えた内容を全体で共有し、お互いの学びを深める。
(情報をもとにした)改善	(4) 班員の意見から、自分の作品を改善するかどうかを考える。 ・～さんの意見から〇〇に変更しよう。	(4) 相手の意見を受容したうえで、その意見を自分の中で吟味し、作品を完成させる。 ・プリントの他の箇所も記入するよう指示をする。 評表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(発言・ワークシート)	(個) 自分で作品の変更の検討や吟味を行う。
4. 本時のまとめと次時への発展	(5) 振り返りを記入する。 ・アドバイスを活かして、作品を変更した。	(5) 自分や他者の考え方のよさや価値について共有する中で、自分の学びを深めることができたか、という視点で、振り返りを促すことで、作品のできだけではなく、創作することの価値に注目できるようにする。	(個) → (全) 個人で考えた内容を全体で共有し、お互いの学びを深める。